

令和6年度 庁議 議事要旨

会議名称	第3回 調整会議
日 時	令和6年8月20（火）午前・ 午後 5時00分～5時50分
場 所	2階会議室
出 席 者	菅原副町長、宮崎副町長、教育長ほか課長職、まちづくり新幹線課主幹、総務課主幹

内 容	【審議事項1】 駅前通りの歩道のロードヒーティング化について（まちづくり新幹線課） （1）概要 ・駅前通りの歩道のロードヒーティング化を進めるにあたり、ロードヒーティング施工に関する実施設計にかかる補正予算を令和6年9月議会に提案することに伴い職員への情報共有及び意見聴取を図る。 （2）結果 ・駅前通りの歩道のロードヒーティング化について、調整会議において内容を了承し政策会議に諮ることとする。 （3）主な意見・質疑・確認事項等 ・事業全体の工事費、財源分布が見えてこない部分があるが、本事業に係る財源についてどう考えているのか。 →財源については、宿泊税も考えながら財政サイドと協議している。 また、ロードヒーティングの整備そのもの自体には、補助とかではなく町単独の財源負担になると考えている。 ・今後所管の委員会で説明していくと思うが、倶知安町都市計画マスタープランなどの資料が配付されたが、その中で駅前通りを以前からこういった賑わいのゾーンとして町が考えていたことは分かるが、これを説明することでロードヒーティングを整備する主旨がぼやけてしまうのではないか →ロードヒーティング化に当たっての町の位置づけについては、各種計画の中で歩きやすい環境を整備していきましようというところが、しっかりと記載されている。また今回、北海道が行う無電柱化工事とタイミングを合わせることで費用面も含めて色々なメリットが出てくると考えている。 ・流雪溝はそのまま残るのか。 →北海道との協議の中では、そのまま使い続けることになると考えている。 現計画では、3.5mの歩道幅に対して2mのロードヒーティング化を想定しており、今後も地先など周辺の除雪を考えた中で、両方を活用した除雪対策を
-----	--

行っていきたいと考えている。

- ・ロードヒーティングをした上をタイヤショベルが通行することは可能か。

→タイヤショベルなどの重機が乗っても耐えられるような仕様にしたいと考えている。

- ・ロードヒーティングの形状は、今と同じ様なものとなるのか。キャリーケースが引きづらいなどの話しも聞く。今後改善していくのか。

→現在は、流雪溝が使いやすいようになど、車道側に向かって傾斜している。駅前通りの人からもこの傾斜が危険だという話しは聞いている。

今後は、フラットな形状にしていきたいと考えている。また、現在は平板ブロックを使用しているが、今後は北海道との要協議の中でどのような形状にするか決めていきたい。

- ・ロードヒーティング化について、駅前通りの沿線の方々には周知して、理解は得られているのか。

→1回目の100人会議には、駅前通りの方々も参加されており、そこでの周知は行っている。あわせて第2回開催予定の100人会議でも周知を実施する予定。また、今後は、「駅前通りを考える会」に赴いて説明もしていきたいと考えている。

- ・ロードヒーティング完成後の維持管理（電気代の支出等も含めて）は、まちづくり新幹線課で行うのか？

→維持管理については、現在、建設課と協議中ではあるが、最終的には建設課で維持管理をお願いしたいと考えている。

- ・100人会議というよりも、駅前通りの方々とは一定程度のコンセンサスを取らないとこの事業は進められないと思うので、その辺を十分考慮して進めていきたい。

- ・500㎜×2（両側）を整備しなければならないものなのか。

→常日頃、町民も使用する歩道であり、今後、観光客も増加していくことが予想される中で、いかにして駅前通りを回遊してもらうかということを考えると、町としては、やはりそこは両側をきちんと整備していきたいと考えている。

（了）